

さらり 看護学生

2018年 **10 11** 月号



02・03 看護の現場より — 糸野 瑳姫さん(東神戸病院)

04・05 特集:「第16回 ENSレポート」

06 わたしが看護師をめざしたわけ — 松本 真紀さん(共立病院)

07 ほっとStation

08 学びがいっぱい!
ナーシングセミナー



看護の現場より

看護学生みなさんに、私たちが日々看護を
実践している現場での奮闘ぶりや、看護に
対する熱い思いをシリーズで紹介します。

安心してかけられる 外来をめざして

東神戸病院
外来看護科 いと の さき 糸野 瑳姫さん



■ はじめに

私が東神戸病院に就職してから今年で5年目になりました。昨年の部署移動で病棟勤務から外来勤務となり、早くも1年が経ちます。

外来では、診察介助、救急対応、内視鏡、特殊検査、手術、化学療法など毎日様々な経験をさせていただいています。

まだまだ慣れないことも多く緊張の毎日ですが、日々たくさんの学びがあります。

■ 外来紹介

当院の外来は、内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、神経心療内科、大腸肛門科があります。

「安心してかけられる外来」「来てよかった、また来たい」と思っただけのような外来を目標に掲げています。

外来は毎日多くの患者さまと関わる部署であるため、その1回の対応で病院自体の印象が決まってしまう場合があります。忙しい毎日ですが、一人ひとりの患者さまの訴えをしっかりと聞いて丁寧な対応を心がけています。

■ 救急対応

外来では、診療時間外や夜間であっても当院かかりつけの方・診療所や在宅管理の患者さまが体調を崩された場合にはできる限り受け入れて対応しています。そのため夜勤や時間外の対応は、当直医の指示で看護師1人での対応となるのでとても緊張感があります。

迅速な検査・処置が必要なので気持ちは焦ってしまいますが、患者さまの訴え・状態やバイタルサインの変化には常に注意が必要です。検査を行い、さらに専門的な治療が必要となった場合には緊急で他病院へ転送となる場合もあります。

夜中でも患者さまや他病院から連絡が入ったり、様々な疾患の患者さまが緊急来院されたりするので大変です。症状や訴えから「今患者さまの身体に何が起こっているのか？」を考えながら行動するのでとても勉強になります。

■ 検査・手術

外来では、手術・内視鏡・特殊検査も担当しています。内視鏡室では、午前中は上部内視鏡(胃カメラ)、午後からは下部内視鏡(大腸カメラ)



▲外来看護科のメンバー



▲今年、新卒で配属された2人です

を行っています。日によっては待ち時間が長い
うえに、患者さまにとってはとても苦痛を伴う
検査です。前処置やカメラの洗浄はもちろんで
すが、患者さまへの分かりやすい説明と声かけ
がとても大切です。

検査の途中で気分が悪くなる場合もあるの

で、検査の介助を行いながらも、患者さまの状
態の観察は常に必要です。

午後からは、肛門科の手術・ペースメーカー
埋め込み術やポート植え込みなどがあり、医師
や放射線科と一緒にいきます。

■ 新しい風

外来では、今年久しぶりに新人看護師が2名
配属されました。慣れない環境に戸惑いや不安
もあると思いますが、毎日元気に頑張っている
姿を見てこちらも良い刺激をもらっています。

当院では初期研修以外にも院内の様々な学
習会も随時企画されていますので、新人だけ
でなく中堅やベテラン看護師も気軽に参加し学
習を深めています。

■ おわりに

外来では限られた時間の中での迅速な処置
や判断が必要です。そのような中でも医師や検
査技師・地域連携室など他職種または看護師同
士の連携はとても大切になります。大変なこと
もありますが、患者さまのお声かけや笑顔に救
われることも多々あり、とてもやりがいのある
現場です。



▲内視鏡室

わ き あい あい 輪希挨拶、平和を願って 笑顔の花を咲かせよう

第16回 ENS in 新大阪ワシントンホテルプラザ

近畿看護学生ゼミナール Egg Nurse Step→B(略してENS)が8月17日、新大阪ワシントンホテルプラザで開催され、124名の看護学生と看護師などの職員が参加しました。夏の恒例行事のENSは今年で16回目です。民医連の近畿全体で毎年開催しています。学習と交流をメインに5月から実行委員会を立ち上げ、各グループごとに企画を練り上げて本番に臨みました。2度目の日帰り企画でしたが、充実した一日となりました。その内容をご紹介します。



学習企画

「私たちが伝えたい民医連の看護」をテーマに、第1話「あきらめない看護」、第2話「平和であってこそその看護」を、実話をもとに職員が演じました。第1話「あきらめない看護」のあらすじをご紹介します。



あらすじ

第1話「あきらめない看護」

入院治療が必要な患者のMさんは、医療費が心配でずっと入院を拒否してきた。病院職員が幾度かMさん宅を訪問し、民医連の病院は差額ベット代を取らない、無料低額診療を行っているので心配はいらないと説得し、ようやく入院が決まる。

検査の結果、Mさんはがん末期と診断。病院食も一口も食べられない状態だったが、本人が出してほしいと希望され、毎食出すも下膳時にいつも怒りだし看護師に殴りかかろうとする。そこで、医師、研修医含む他職種でMさんについてカンファレンスを行う。「Mさんは麻雀が好きらしいですよ」の看護師の一言で、Mさんと一緒に麻雀をする計画が始まった。その日から、Mさんはあれだけ拒否されていたお風呂や髭剃りもし、満面の笑顔で「楽しみや！」と。麻雀の日以来、Mさんは若いころから貧乏したこと、食べる事にも苦勞し下膳されることが辛かったことなど自分自身の人生を語り始めた。入院するまでは医療不信・人間不信を抱えていたMさんが、看護の中で人を信頼する心を取り戻していった。

【感想】

- 患者さんの意見を尊重することや、その人が楽しく過ごせるように考える姿がとてもカッコイイなと思いました。
- 「平和の維持」というとすごく大きくて、距離があって、別の世界のことのようですが、ENSに参加することで看護学生にもできることがあるんだ！と感じました。

交流企画

- ① 見た目判断してYO!
- ② 借り人レースだYO!
- ③ ワードウルフだYO!



3つのゲームで初対面の人も仲良くできることができました。

【感想】

- 初対面の人たちでもみんなで楽しめるものを考えられていると思いました。



看護師と語ろう

先輩看護師より民医連の魅力について語ってもらい、その後4つのテーマに分かれて看護師より話を聞き、看護学生の質問に答えてもらいました。

- ① 生活…リフレッシュ方法や学生時代のバイトや遊び
- ② 学習…勉強方法、臨床に出てから必要な学習、国試について
- ③ 実習…注意した方がいいこと、辛かったこと、実習で学んだこと、嬉しかったこと、カルテの見方や情報収集の仕方、メモの取り方
- ④ 臨床…患者さんとのコミュニケーションの取り方、認知症について、話せない人とのコミュニケーションの取り方、小児患者への治療の説明方法、使っている医療物品について

【感想】

- 現場の看護師さんに話を聞くことができて、働くイメージや生活のイメージができてよかったです。

学生同士で Talk Together

班で①アルバイトと勉強の両立、②学校の規則、変わっているなど思うことについて、「パパ・ママ」、「男子」、「大人(社会人)」、「現役1回生」、「現役2~4回生」のグループに別れてTalk Togetherしました。

【感想】

- いま悩んでいること、困っていること、他校のことを話し合い、不安の解消や共有ができました。





おめ 看護 お け ざ し 師 た た し を が

姫路医療生協・共立病院

看護師 松本 真紀さん



1995年1月17日、阪神・淡路大震災が occurred.

この震災をきっかけに、私の人生は大きく変わる事となりました。

その頃私は西宮に住んでおり、29歳で6歳と3歳の男の子の子育てを

しながら、一般の仕事に就き平凡な毎日を過ごしていました。

しかし、この一瞬の地震により、私の住み育った町は一変してしまいました。

古い建物はことごとく倒壊し、多くの方が被害に遭っていました。勤めていた職場も大きな被害にあい、子どもたちが通っていた保育園も休園となったため、自宅にいるしかなかったのですが、自宅(賃貸)は半壊

状態で、水やガスなどライフラインが途絶えた状態でした。食事、トイレ、入浴など何をするにも水が必要

で、その時初めて、蛇口をひねれば当たり前に出てくる水の有り難さを感じました。

明けでも暮れても水汲みの毎日が始まり、そのうちに、ご近所の高齢者は給水車が来ても、その水をもらいに行けないことに気付き、配達することにしました。地震がおこるまでは近所付き合いは挨拶程度でしたが、子どもたちの面倒をみてくれたり、それぞれが自分の周りの人を気にかけて、助け合うということが

広がっていったように思います。

この一瞬の地震で多くの方が大切な命を奪われました。きっと誰一人として「自分に明日がこない」と

思っていた人はいないと思うのです。やりたいことや会いたい人がいたはずだと思います。

そう思うと「生かされたこの命」に対して、平凡な毎を送ることをしては、明日という日を迎えるこ

とが出来なかった人に対し、罪悪感や何とも言えない焦りを感じました。

そんな中、地震直後から病院に行き、毎日忙しく働いていた看護師の姉をみて「私にも他人(ひと)のため

に何か出来ることがあるかもしれない!」と思い、翌年30歳にして准看護学校に入学しました。

准看護師になって十余年「他人のために何かできること」に満足はありましたが、2011年3月11日東日本大震災がおこり、日々思い出すことさえしていなかった地震の頃の記憶がよみがえり「もうひと頑張りしな

なければ!」と思い、准看護師で満足していた自分を奮い立たせ、翌年47歳で入学して、2年間猛勉強をして(覚えるのには時間がかかるが、忘れるのはあつという間!?)資格をとることができ、現在に至ります。

この未曾有の大震災は、私に「明日がある」と思わずに「今できることは、今、全力で頑張っていく!」悔

いのない生き方をするようにと、自分が変わる大きなきっかけになりました。

みなさんが看護師を目指したきっかけは何ですか?人それぞれだと思いますが、初心を忘れずに学校生

活を頑張ってくださいね。

読者の声



いつも読ませていただいております!! 大学一回生です! 今回とはくに「看護奨学生交流会」のページが印象的でした!! 自分の考え方を変えたいと思いました!
(看護学生・カレペル)

透析について少し分かりました♪初めての実習が9月3日からあるので頑張りたい。
(看護学生・ミーちゃん)

期待と不安でいっぱいです。実習での経験、全てが勉強! ガンバッテ!!

これからも役立つ記事をたくさん掲載するので楽しみにしてくださいね!!

初めて知った医療用語(SDH)について学習として知識を得ることができた。様々な場面で活躍できるよう、このような機会から少しずつ知識を増やしていきたいと思う。
(看護学生・むぎ)

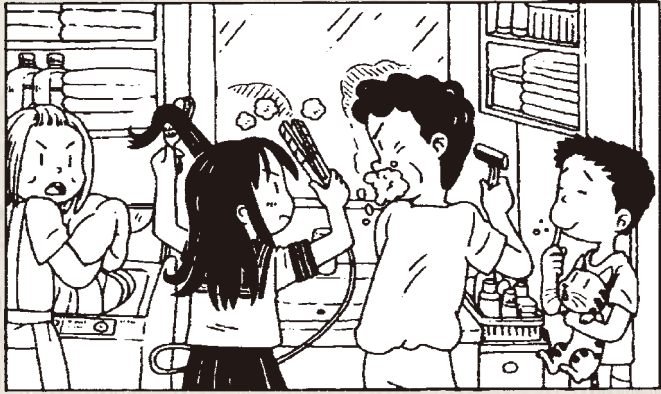
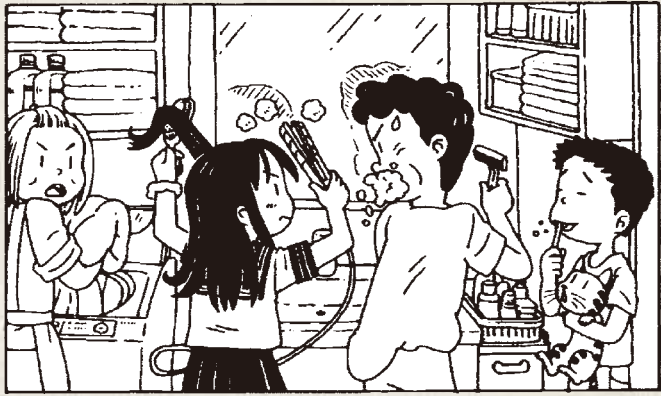
毎日楽しい学校生活!! 次は学校祭に向けてがんばるぞ~!
(看護学生・ふいん)

学校生活、楽しそうですね! おもいきりエンジョイしてください!!

おぼえることがたくさんあるけど、少しずついいからガンバッテ!!

実習お疲れ様でした! 応援しています。ガンバレ!!

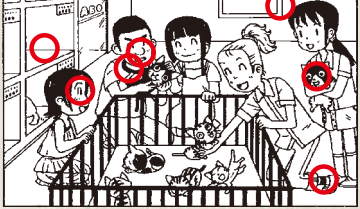
実習が全て終わりました!! 残り数ヶ月、国試合格に向け頑張ります!!
(看護学生・mii)



7つのまちがい

同封の返信ハガキに答えを書いて応募してください。応募いただいた正解者に抽選で図書カードをプレゼント! **12月10日(月)必着**。当選の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

[問題] 上の絵と下の絵では7つのまちがいがあります! どこでしょう? (作・野上和彦)
前回のまちがいさがしの答え➡



編集後記
猛暑続きの夏が終わり、朝晩過ごしやすくなりました。
ほんの1ヶ月前には、カエルがゲロゲロとうるさかったのに…。
昨日、夜の散歩をしていると鈴虫が鳴いていました。秋の気配を感じる今日この頃です!! (S)

学びがいっぱい! ナーシング セミナー



8月から9月にかけて、兵庫民医連の各病院で看護学生のみなさんを対象に
ナーシングセミナー(看護学生の看護師体験)を開催しました。
今年は合計90名が参加してくれました。

◆ 尼崎医療生協病院 ◆

● 訪問看護

看護師主体ではなく、あくまで利用者主体で実施されているので、訪問看護師は「生活を支える」という役割があるということが解りました。(大学4年生)

● 地域包括ケア病棟

おむつ交換など、授業で習ったことと実際は違い、実践でしか学べないことが多くありました。(専門学校1年生)

● 産婦人科病棟

育児に自信をもってもらうには、不安や悩みを解消できる働きかけ(指導・アドバイス)がとても大切だと学びました。(専門学校2年生)



◆ 東神戸病院 ◆

● 内科急性期病棟

いつもは人形でしか練習をしたことがなかったので、患者さんを支えた瞬間重くてびっくりしました。授業で一度は習っていたことでも復習をしっかりとしないと、患者さんを目の前にした時に慌てしまうので、復習を大事にしていこうと思いました。(専門学校1年生)

● 回復期リハビリ病棟

転倒転落カンファレンスでは、その人に合った生活を想定した配置や補助具の配置をしており、患者さん一人ひとりを大切にしていることが伝わってきました。患者さんの出来ないことを見るのではなく、出来ることを次の出来るへ繋げていっているように思いました。(専門学校2年生)



◆ 神戸協同病院 ◆

● 訪問看護STつばさ

患者さんの生活の中に入れていただく上で、その方の生活に合わせることも必要ですが、医療の目線で考え改善していくことも必要な場面を見学させていただきました。それを伝える時の声かけの方法・言葉・目線など、看護の基本である看護師の姿勢はとても大切だと感じました。病棟で出会う患者さんやご家族が、退院後にどのような生活を送られるのかをイメージすることができ、学ぶことができました。(専門学校2年生)

● 混合病棟

学校での演習や授業とは違い、患者さんと関わることで直接感じ取れることもあり、貴重な経験になったと思います。点滴ロックなど、1つ1つの処置すべてに理由があること、検温・血圧測定から予測して処理を行うなど、学ぶことが多くありました。担当していただいた看護師さんからは、実習でのポイントや、患者さんの様子を見るポイントなど色々なことを教えていただきました。今日の体験を活かして、これからの実習に臨んでいきたいと思います。(専門学校1年生)



※「知っておきたい言葉 SDH」Part2は次号に掲載します。